

令和8年3月31日

保護者の皆様
地域の皆様

世田谷区立緑丘中学校
校長 小林 智明

令和8年度に向けた改善方策、前年度の改善方策について実行した改善結果
(学校関係者評価委員会評価結果の報告を受けて)

先日学校関係者評価委員会から、学校関係者評価結果の分析と報告を受けました。良好な評価とともに、改善を図る点について提言も受けました。

校長として寄せられたご回答やご意見をしっかりと受け止め、具体的改善方策を考え、次年度の教育活動に生かすこととお約束します。

記

学校評価委員からの提言と次年度に向けた改善方策

	学校評価委員会からの提言	校長として次年度に向けた改善策
I 基本方針と方策について		
1. 学習指導の充実「教育DXと探究的な学びに重点を置く」		
	教育DXに関する生徒へのアンケートでは、どの学年も肯定的な回答（「とても思う」「思う」の合計）が9割を超えている。教員の自己評価を見ても、同様の項目は9割を超えている。しかし、保護者へのアンケートでは「分からない」の回答が2割から3割を占めていることから、保護者へは生徒・教員ほどは伝わっていないことが読み取れる。	教育DXについては教員間に意識が浸透してきているので、アンケート結果にもその様子が反映されていると考えられる。 ただ、保護者に対して学校における教育DXの推進が理解されていないのは、授業の様子の発信（HP、学校公開等）が不足しているためなので、次年度は生徒、教員のみならず保護者にも教育DXが緑丘中学校で進められているということを積極的に発信する。
2. 生活指導の充実 「自他を敬愛し、協力し、責任感の強い生徒」の育成		
	生徒アンケートの「仲間や友達を大切にしている」という項目については、どの学年も肯定的な回答が9割近くあり、かなり意識されていることが読み取れた。しかし、生徒アンケートの自由記述欄には、「治安が悪い」という回答も複数見られ、生徒同士の関係性について丁寧に検討していく必要があると考えられる。教員は非常に忙しい状況にあり、対応が難しいこともある。そこで、IVの総合所見にも述べたが、地域と連携していくことやスクールソーシャルワーカー等をはじめとした専門職との連携も今以上に求められると考える。	仲間や友達を大切にしていこうという呼びかけや授業については、特別の教科道徳や特別活動等で積極的に実施しているので、アンケートにも良い結果が表れたのだと考えられる。 「治安が悪い」という指摘については、一部生徒の落ち着かない態度によるもので、報告にもある通り教員からの指導だけでなく、学校運営協議会を中心とした地域の皆様や、子ども家庭支援センター・児童相談所・所轄の警察署等の行政と連携を密にし、大人の目を学校に入れていくことで生徒に安全・安心感を与える。

3. 豊かな心の育成「自ら考え、正しい判断や行動のできる生徒」「挨拶、言葉遣い、表現力などが身についた生徒」「生命を尊重し、人の心を思いやる生徒」の育成

<p>生徒アンケートの「悪ふざけやトラブルがあると互いに注意し合える」という項目については、肯定的な回答が6割から8割程度と学年で開きが見られる。これらから読み取れることは、教員の指導によって、挨拶等を意識的に行っている一方で、自尊感情が高まっているとは言い難い。上記の原因として、生徒間のトラブル等があり、それらについては自身が注意できていないという意識があるのではと思われる。これらの関係については、アンケート調査から判断が難しいこともあり、今後の課題だと思われる。</p>	<p>教員の指導を理解して行動に移すことができる生徒が多くいる中で、自ら考えて自身の行動や考えを律するまでに至っている生徒は多くない。構成的グループエンカウンターや学校行事の取組等を通して非認知能力、自尊感情を高める指導を継続して行うことで、豊かな心をもった生徒を育成する。</p> <p>生徒間のトラブルについても同様に、我関せず、見て見ぬふりといった状態から自ら積極的に解決に動けるような生徒を一人でも多く育成していくため、丁寧な生徒観察を行い、相談しやすい環境や雰囲気醸成に努める。</p>
---	--

(4) 進路指導の充実 「自己理解ができ、自分の進路を選択できる生徒」の育成

<p>どの学年もキャリア・パスポートについては肯定的な回答が8割前後を占めており、昨年より上昇している傾向がみられる。なお、保護者では肯定的な回答が3割から5割であり、学年によって意識に差が見られる。教員の自己評価を見ても、9割程度の肯定的な回答があり、全体的に取り組んでいる傾向が読み取れる。</p>	<p>キャリア・パスポートの様式を整え、全学年で統一した様式を用いて活用を推進している。次年度は保護者の肯定的な回答が上昇するように、三者面談でキャリア・パスポートを活用したり、保護者にコメントを求めたりといった工夫を重ねていく。</p> <p>また、新規・転入職員にも共有を進めることで、緑丘中のスタンダードとして定着させる。</p>
---	--

II 共通項目アンケートの評価

<p>②保護者アンケートより</p> <p>自由記述については、学校や教員への対応に不信感を表しているものもあった。この点について、教職員ヒアリングで質問したところ、いくつかの自由記述については、学校の意図とは異なるものもあった。詳しい原因や状況は分からないが、こうした面からも保護者、学校、地域の連携は今後の課題だと考えられる。</p>	<p>保護者の意見に対しては真摯に向き合い、解決に向けて迅速に対応する。学校の意図と異なる受け取り方をされてしまうということは、こちら側の発信の頻度、方法に誤りがあったという考え方を基本とし、丁寧に説明を繰り返す。</p> <p>学校と保護者の間だけで解決しない問題については、地域や行政との密接な連携を図り、解決を目指す。</p>
---	--

III 教員による自己評価について

<p>教員から課題に挙げられていたのが、校務分掌の偏りや働き方改革についてであった。アンケート結果からは推測の域を出ないが、おそらく一部の先生に業務が偏っていることが予想される。また、近年は教員の働き方改革が叫ばれる一方で、制度等が追いついてお</p>	<p>主任等に業務が偏ってしまう傾向は否めないが、できる限り教員のワークライフバランスについても考慮し、所属職員で業務を効率よく分担できるようにする。</p>
--	---

	らず、現場ではなかなか進んでいないことも読み取れる。	働き方改革は道半ばであるが、教員自らが改革を実感できるような具体的な方策を考えることが必要である。
--	----------------------------	---

IV 学校関係者評価委員会としての総合所見

	<p>教員の自己評価や教員ヒアリングから明らかになったことは、教員は様々な業務で非常に忙しいということである。生徒・保護者に丁寧に対応したくとも対応できない状況が窺えた。また、保護者の自由記述からは、保護者の厳しい状況も窺うことができた。今後はこうした学校と地域の連携を進めていけるような職員、例えばスクールソーシャルワーカーの拡充なども視野にいれるべきであり、学校現場の状況を考えると喫緊の課題だと思われる。世田谷区教育委員会には、スクールソーシャルワーカーをはじめとした専門職配置の拡充を是非ともお願いしたい次第である。</p>	<p>教員の多忙、保護者からの要求については委員の皆様にも共有していただけた。次年度からは新しく学校運営協議会が発足し、部活動地域展開もいよいよ具体化してきている。地域や行政と連携することで、教員が本来取り組まなければならない学習指導や学級経営に時間を割けるようになれば、子供たちにその成果を還元することができる。すべての取組は子供たちのためにならなければ意味がないので、そのことを忘れず、地に足を付けて学校改善に取り組む。</p>
--	--	--

V 前年度の改善方策について実行した改善結果

<p>○生徒間のコミュニケーション・友情・絆を強めていくための構成的グループエンカウターの活用、SCを活用した教育相談、人権意識醸成のための人権教育、学級での面談・相談等を通して、いじめの未然防止、早期発見に全教職員で取り組んでいく。</p> <p>⇒構成的グループエンカウターについては各学年学期に複数回取り組むことができ、コミュニケーション能力を磨くことができた。アンケート結果でも、年度内で肯定的な回答が聞き取ったすべての分野で向上した。いじめについてはふれあい月間のアンケートを生かし、細やかな聞き取りと迅速な事情確認、必要に応じた指導を行うことができた。</p> <p>○自分に自信をもてるものがあるという生徒の育成について、教科の授業や特別活動等を通して自尊心を育む機会を意図的に多く設け、非認知能力の育成に努めていく。</p> <p>⇒教科の授業だけでなく学校行事や特別活動、特別の教科道徳の時間を通し生徒の非認知能力の育成に努めた。本格的な取組を始めてまだ間もないので、経年変化を確認しながらPDCAサイクルを効果的に回していき、生徒が学校生活を充実したものにできるよう取組を実施していく。</p>
